

表 3.2.5～表 3.2.9に、各地域別の血液中ダイオキシン類濃度の統計値を示す。

表 3.2.5 関東甲信越 A の血液中ダイオキシン類濃度

単位：pg-TEQ/g-fat

	都市地区 (n=18)	農村地区 (n=17)	地域 (n=35)
PCDDs+PCDFs			
平均値	5.7	6.9	6.3
標準偏差	2.6	3.5	3.1
中央値	5.5	6.2	5.9
範囲	2.1～12	2.3～14	2.1～14
Co-PCBs			
平均値	2.9	4.1	3.5
標準偏差	1.6	2.0	1.9
中央値	3.2	4.1	3.5
範囲	0.047～6.4	0.41～7.4	0.047～7.4
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs			
平均値	8.6	11	9.7
標準偏差	3.9	4.8	4.5
中央値	8.8	10	9.7
範囲	2.1～18	2.7～19	2.1～19

表 3.2.6 関東甲信越 B の血液中ダイオキシン類濃度

単位：pg-TEQ/g-fat

	都市地区 (n=19)	漁村地区 (n=16)	地域 (n=35)
PCDDs+PCDFs			
平均値	6.4	8.1	7.2
標準偏差	4.1	5.6	4.8
中央値	5.8	7.5	6.1
範囲	1.0～19	0.38～23	0.38～23
Co-PCBs			
平均値	5.0	9.1	6.9
標準偏差	3.1	8.5	6.4
中央値	4.2	5.6	4.8
範囲	1.1～13	0.051～34	0.051～34
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs			
平均値	11	17	14
標準偏差	6.6	14	11
中央値	9.8	13	10
範囲	2.1～32	0.43～56	0.43～56

表 3.2.7 東海北陸近畿 A の血液中ダイオキシン類濃度

単位 : pg-TEQ/g-fat

	都市地区 (n=18)	漁村地区 (n=17)	地域 (n=35)
PCDDs+PCDFs			
平均値	6.8	19	13
標準偏差	5.0	6.7	8.4
中央値	5.2	18	12
範囲	0.040~17	10~33	0.040~33
Co-PCBs			
平均値	4.8	19	12
標準偏差	4.0	15	13
中央値	3.6	15	6.8
範囲	0.065~14	5.3~51	0.065~51
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs			
平均値	12	38	24
標準偏差	8.5	20	20
中央値	9.2	32	20
範囲	0.11~30	16~82	0.11~82

表 3.2.8 東海北陸近畿 B の血液中ダイオキシン類濃度

単位 :

pg-TEQ/g-fat

	都市地区 (n=18)	農村地区 (n=18)	地域 (n=36)
PCDDs+PCDFs			
平均値	6.1	5.2	5.6
標準偏差	3.5	3.8	3.6
中央値	5.7	4.3	4.5
範囲	0.40~17	0.052~15	0.052~17
Co-PCBs			
平均値	4.7	4.0	4.4
標準偏差	2.8	3.7	3.3
中央値	4.0	3.0	3.7
範囲	1.1~11	0.049~14	0.049~14
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs			
平均値	11	9.3	10
標準偏差	5.8	7.3	6.5
中央値	10	7.3	8.6
範囲	1.5~26	0.10~26	0.10~26

表 3.2.9 中国四国の血液中ダイオキシン類濃度

単位：pg-TEQ/g-fat

	都市地区 (n=17)	漁村地区 (n=16)	地域 (n=33)
PCDDs+PCDFs			
平均値	5.9	7.6	6.7
標準偏差	2.1	5.5	4.1
中央値	5.3	6.2	6.1
範囲	3.0~9.0	1.3~19	1.3~19
Co-PCBs			
平均値	4.9	9.1	6.9
標準偏差	3.6	7.3	6.0
中央値	4.3	5.6	4.9
範囲	0.77~16	0.42~23	0.42~23
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs			
平均値	11	16	14
標準偏差	4.9	12	9.5
中央値	11	12	11
範囲	5.0~25	2.7~42	2.7~42

図 3.2.13に、PCDDs、PCDFs、Co-PCBs の割合を示す。また、図 3.2.14及び図 3.2.15に、各異性体の割合を示す。

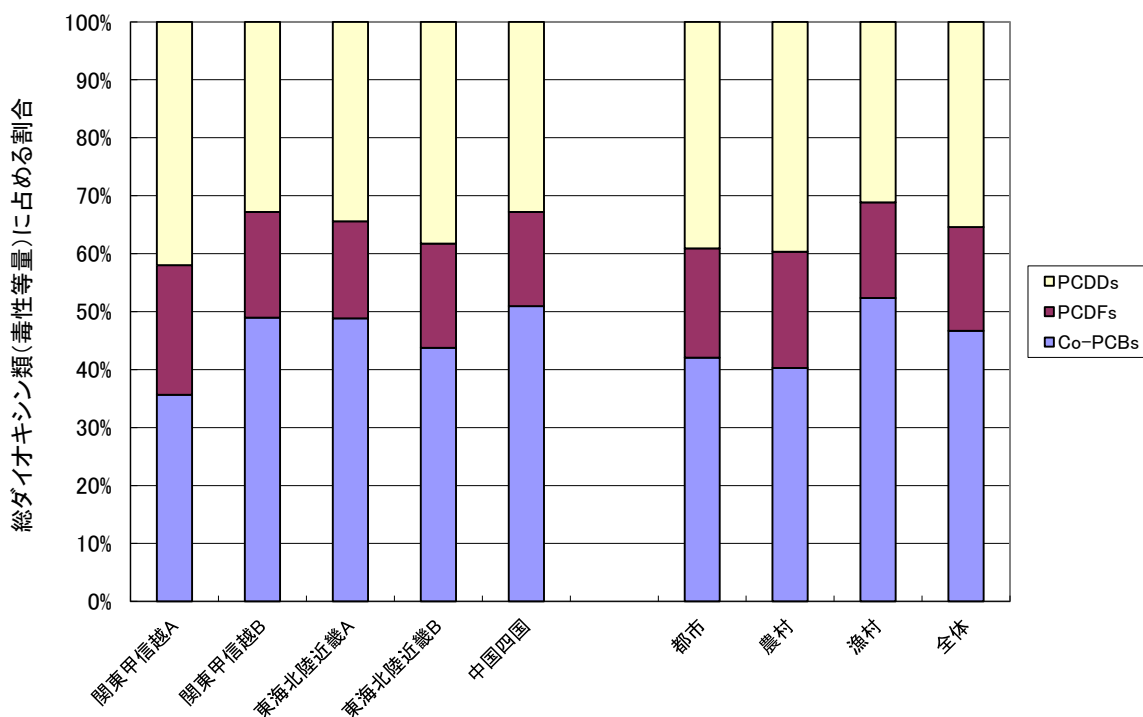


図 3.2.13 PCDDs、PCDFs、Co-PCBs の割合 (毒性等量)

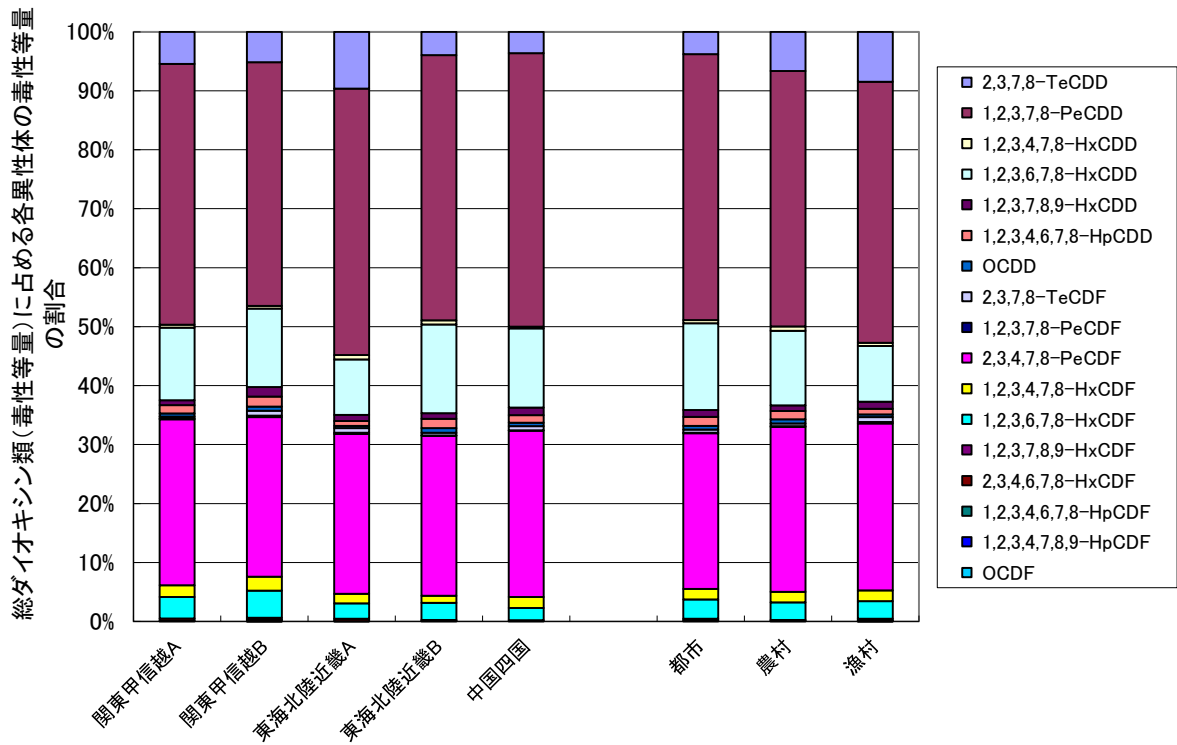


図 3.2.14 各異性体割合の比較 (PCDD, PCDF)

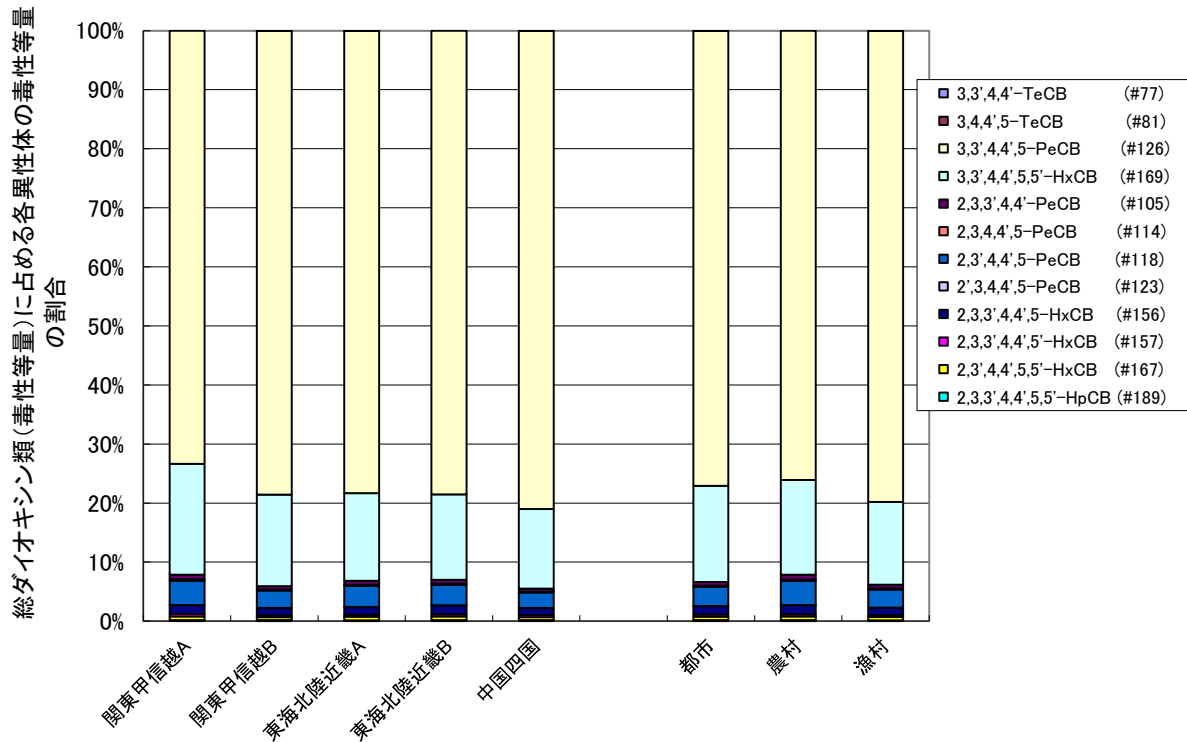


図 3.2.15 各異性体割合の比較 (Co-PCB)

3.2.2 過年度調査との比較

本年度と過年度の調査結果を比較し、表 3.2.10、図 3.2.16及び図 3.2.17に示す。
各年度間では調査対象者の条件（年齢等）が違うため単純に比較することは難しいが、ほぼ同程度の結果であると考えられる。

表 3.2.10 過年度調査の血液中ダイオキシン類濃度レベルの推移（一般環境地域）

調査年	単位：pg-TEQ/g-fat								
	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
対象者数	259	272	264	288	291	282	257	178	174
年齢									
平均（歳）	44.4	41.7	45.2	44.3	43.0	44.2	47.6	46.3	44.5
範囲	16～72	15～69	15～70	15～70	15～72	15～69	17～70	18～76	16～70
PCDDs+PCDFs									
平均値	13	13	13	12	11	11	11	9.8	7.7
標準偏差	7.9	7.0	8.2	7.8	7.4	8.2	7.4	6.8	5.7
中央値	12	11	11	10	8.9	9.6	10	8.0	6.1
範囲	0.44～52	2.2～46	0.57～53	0.40～54	0.79～61	0.65～63	0.37～53	0.98～37	0.040～33
Co-PCBs									
平均値	8.4	7.0	6.9	9.3	6.8	8.4	9.2	7.6	6.7
標準偏差	7.4	5.4	6.0	8.0	5.9	8.0	8.6	5.9	7.7
中央値	6.5	5.3	5.2	6.3	4.9	5.9	6.9	5.9	4.2
範囲	0.061～59	0.042～51	0.064～48	0.087～45	0.013～34	0.075～61	0.067～81	0.13～37	0.047～51
PCDDs+PCDFs Co-PCBs									
平均値	22	19	19	22	17	20	21	17	14
標準偏差	14	12	13	15	12	15	15	12	13
中央値	19	17	16	17	14	16	17	14	11
範囲	0.96～95	2.7～97	0.64～85	1.5～75	0.82～67	1.6～120	0.43～130	1.1～59	0.10～82

注：本表のダイオキシン類濃度は、実測濃度が「定量下限値未満（N.D.）」であった場合、異性体の実測濃度を0として計算された値である。

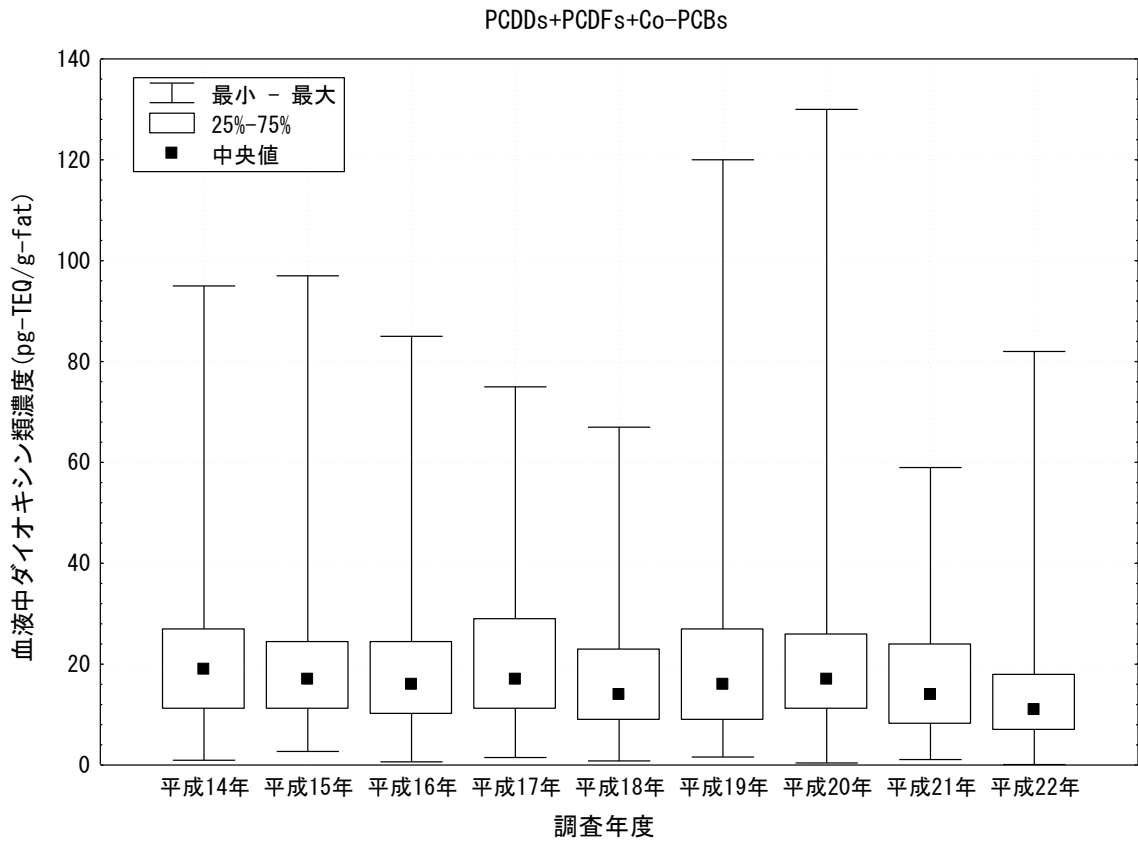


図 3.2.16 血液中ダイオキシン類濃度の経年変化

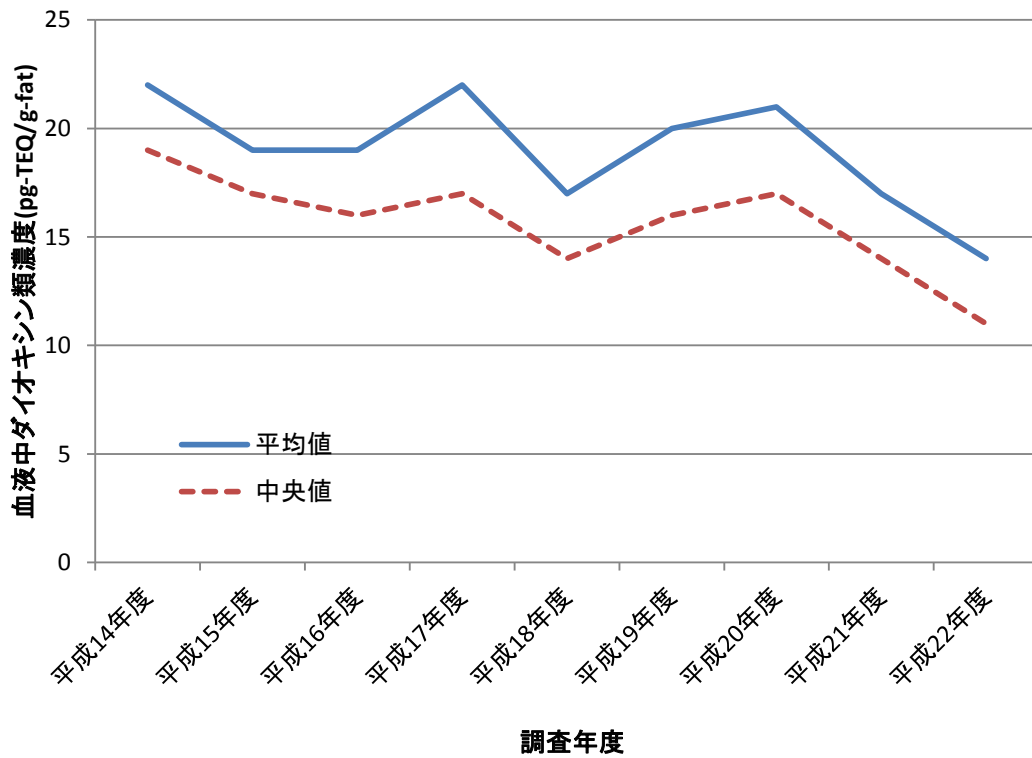


図 3.2.17 血液中ダイオキシン類濃度の経年変化 (平均値・中央値)

3.2.3 年齢との関係

図 3.2.18に血液中ダイオキシン類濃度と年齢との関係を示し、表 3.2.11及び図 3.2.19に年代別の血液中ダイオキシン類濃度の統計値を示す。

年齢が高くなるにつれ PCDDs+PCDFs、Co-PCBs 及び PCDDs+PCDFs+Co-PCBs とも濃度が高くなる傾向を示した。

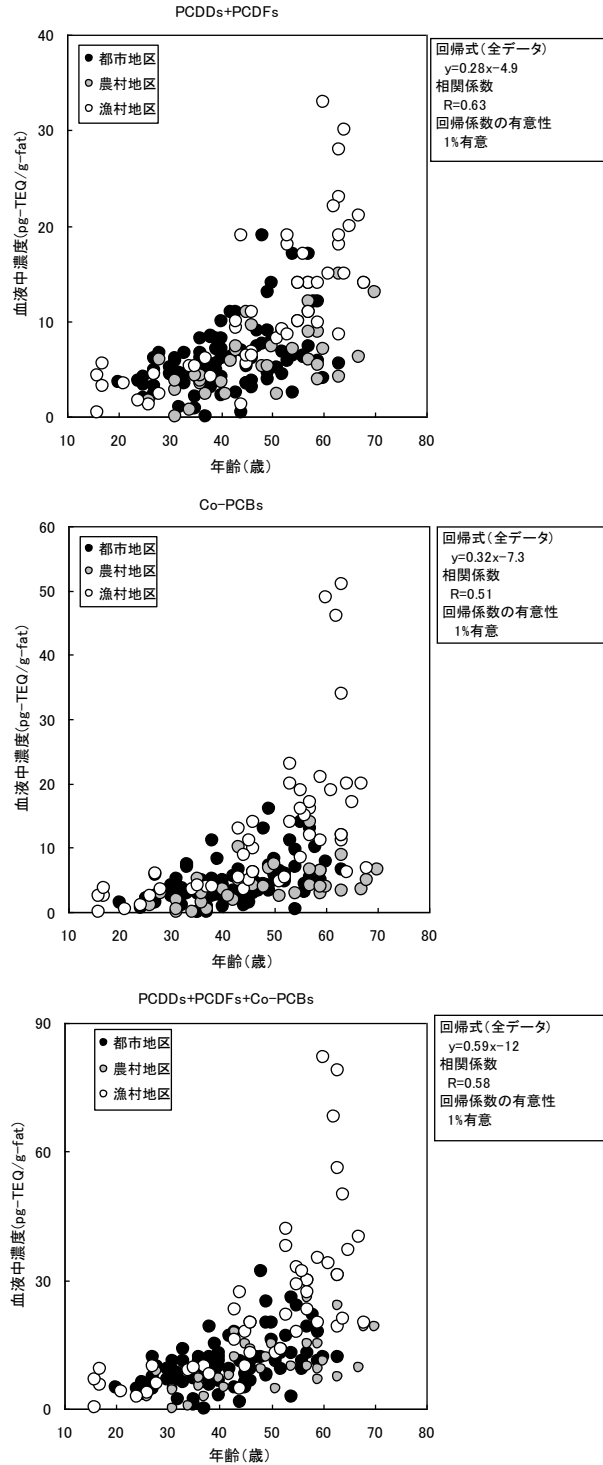


図 3.2.18 血液中ダイオキシン類と年齢の関係

表 3.2.11 年代別の血液中ダイオキシン類濃度

単位：pg-TEQ/g-fat

	10歳代 (n=4)	20歳代 (n=18)	30歳代 (n=45)	40歳代 (n=44)	50歳代 (n=42)	60歳代以上 (n=21)	全員 (n=174)
PCDDs+PCDFs							
平均値	3.4	3.6	4.5	7.0	9.7	16	7.7
標準偏差	2.2	1.6	2.1	4.0	4.3	8.4	5.7
中央値	3.8	3.6	4.4	6.4	9.0	15	6.1
範囲	0.38~5.6	1.3~6.7	0.040~8.4	0.40~19	2.3~19	4.0~33	0.040~33
Co-PCBs							
平均値	2.2	2.4	3.2	5.4	9.1	17	6.7
標準偏差	1.6	1.5	2.2	3.6	5.7	15	7.7
中央値	2.5	2.3	3.1	4.2	6.7	11	4.2
範囲	0.051~3.8	0.42~5.9	0.047~11	0.74~16	0.41~23	3.2~51	0.047~51
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs							
平均値	5.6	6.0	7.7	12	19	32	14
標準偏差	3.8	2.6	3.9	6.6	9.4	23	13
中央値	6.2	5.6	8.2	12	17	24	11
範囲	0.43~9.4	2.7~12	0.10~19	1.5~32	2.9~42	7.4~82	0.10~82

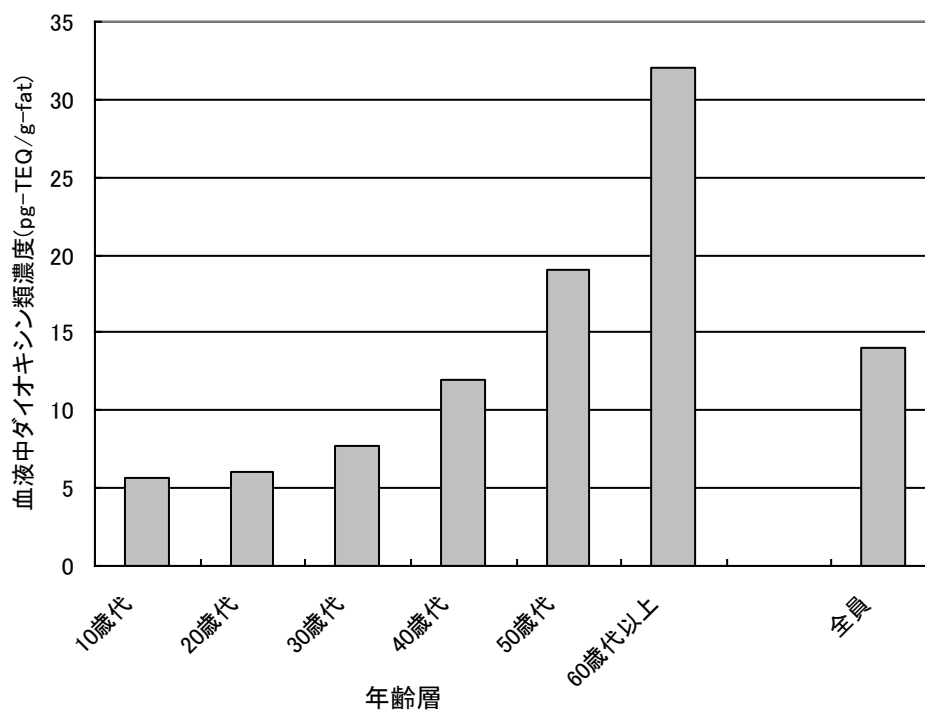


図 3.2.19 年代別血液中ダイオキシン類濃度の平均値

他の項目と血液中ダイオキシン類濃度との比較を行う際に、年齢の要素を排除した解析を行うことを目的に、血液中ダイオキシン類濃度について以下に示す年齢調整を行った。

<年齢調整の方法について>

まず、平成14年度～平成22年度の対象者2,264人について、血液中PCDDs+PCDFs濃度及び血液中Co-PCBs濃度を対数変換し(図3.2.20参照)、表3.2.12に示す回帰式を作成した。

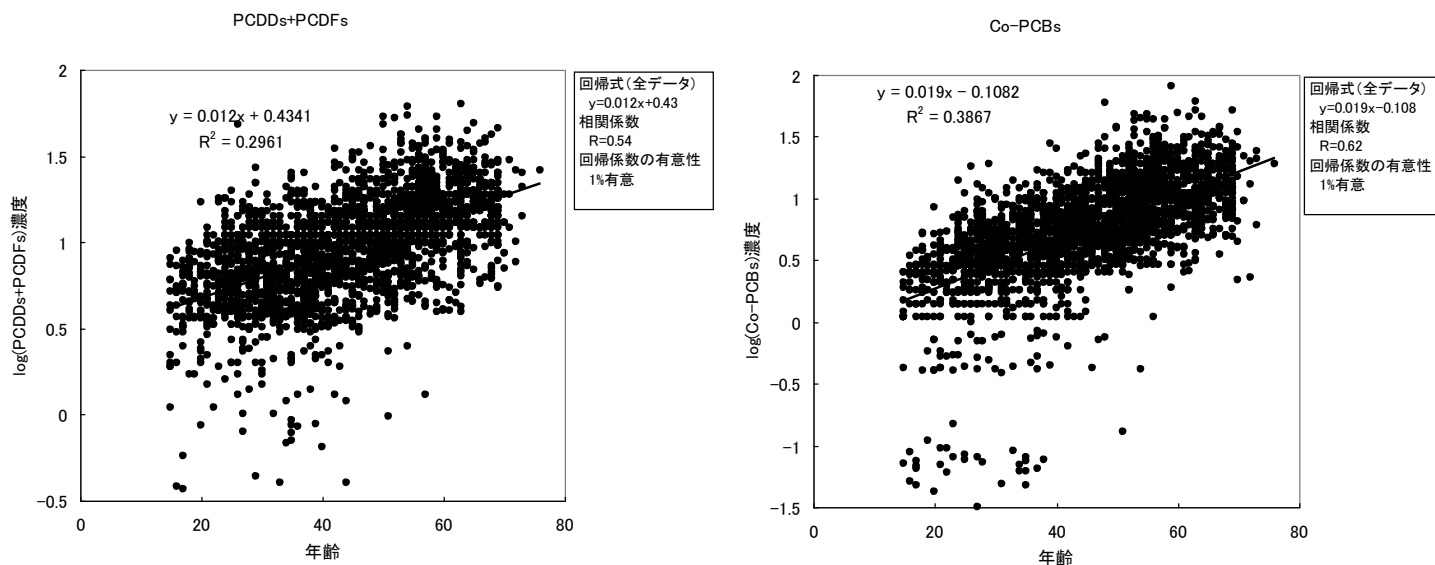


図 3.2.20 血液中濃度を対数変換した数値と年齢との関係

表 3.2.12 血液中ダイオキシン類濃度と年齢との回帰式

	回帰式	回帰係数の有意性	相関係数
PCDDs+PCDFs	$\log(\text{血液中濃度}) = 0.012 \times \text{年齢} + 0.43$	1%有意	0.54
Co-PCBs	$\log(\text{血液中濃度}) = 0.019 \times \text{年齢} - 0.108$	1%有意	0.62

この回帰式の傾きを基に、年齢が1歳増すごとに、血液中PCDDs+PCDFs濃度を対数変換した数値は0.012pg-TEQ/g-fat増加し、血液中Co-PCBs濃度を対数変換した数値については0.019pg-TEQ/g-fat増加すると仮定して、各対象者の年齢が全対象者の平均年齢44.5歳になるように調整し、対数を取って年齢調整値とした。

3.2.4 地域・地区間の比較

血液中ダイオキシン類濃度の各地域・地区間の濃度差を検定した結果を表 3.2.13 及び表 3.2.14に示す。

血中ダイオキシン類濃度は、地域・地区間とも有意な差が認められた。

表 3.2.13 地域間の差の検定（中央値、範囲）

単位：pg-TEQ/g-fat

	関東 甲信越A	関東 甲信越B	東海北陸 近畿A	東海北陸 近畿B	中国 四国	検定結果
PCDDs+PCDFs	5.9 2.1～14	6.1 0.38～23	12 0.040～33	4.5 0.052～17	6.1 1.3～19	**
Co-PCBs	3.5 0.047～7.4	4.8 0.051～34	6.8 0.065～51	3.7 0.049～14	4.9 0.42～23	**
PCDDs+PCDFs+ Co-PCBs	9.7 2.1～19	10 0.43～56	20 0.11～82	8.6 0.10～26	11 2.7～42	**
PCDDs+PCDFs (年齢調整値)	5.5 1.9～11	7.0 0.82～17	8.6 0.049～21	5.0 0.074～13	6.8 2.1～15	**
Co-PCBs (年齢調整値)	2.9 0.070～5.7	5.7 0.17～15	5.4 0.088～24	3.8 0.087～10	5.3 1.0～16	**
PCDDs+PCDFs+ Co-PCBs (年齢調整値)	8.4 2.2～15	14 1.0～28	14 0.14～46	8.8 0.16～19	13 5.4～30	**

表中の上段は中央値、下段は最小値～最大値

検定：クラスカル・ワーリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

表 3.2.14 地区間の差の検定

単位：pg-TEQ/g-fat

	都市地区	農業地区	漁村地区	検定結果
PCDDs+PCDFs	5.7 0.040～19	5.4 0.052～15	10 0.38～33	*
Co-PCBs	3.7 0.047～16	3.5 0.049～14	11 0.051～51	**
PCDDs+PCDFs+ Co-PCBs	9.6 0.11～32	9.2 0.10～26	20 0.43～82	**
PCDDs+PCDFs (年齢調整値)	6.4 0.049～17	4.7 0.074～8.4	7.7 0.82～21	**
Co-PCBs (年齢調整値)	4.3 0.070～14	2.9 0.087～10	7.3 0.17～24	**
PCDDs+PCDFs+ Co-PCBs (年齢調整値)	10 0.14～28	8.0 0.16～18	16 1.0～46	**

表中の上段は中央値、下段は最小値～最大値

検定：クラスカル・ワーリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

3.2.6 授乳形態との関係

出産経験のある女性について、授乳形態別の血液中ダイオキシン類濃度を表 3.2.17、表 3.2.18に示す。母乳哺育を行った女性の濃度が有意に低かった。

表 3.2.17 授乳形態別の血液中ダイオキシン類濃度

単位：pg-TEQ/g-fat

	母乳哺育 (n=22)	混合乳哺育 (n=22)	人工乳哺育 (n=9)	検定
平均年齢	46.1歳	47.9歳	57.3歳	
PCDDs+PCDFs				
平均値	4.3	8.2	13	**
標準偏差	3.3	4.8	8.4	
中央値	4.4	7.8	14	
範囲	0.040~13	2.3~19	1.7~30	
Co-PCBs				
平均値	3.4	6.5	9.5	**
標準偏差	2.6	4.6	6.7	
中央値	3.5	5.1	8.4	
範囲	0.049~11	1.4~17	1.1~20	
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs				
平均値	7.8	15	23	**
標準偏差	5.4	8.4	15	
中央値	8.3	13	19	
範囲	0.10~19	4.7~32	2.8~50	

検定：クラスカル・ワーリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

表 3.2.18 授乳形態別の血液中ダイオキシン類濃度（年齢調整値）

単位：pg-TEQ/g-fat

	母乳哺育 (n=22)	混合乳哺育 (n=22)	人工乳哺育 (n=9)	検定
PCDDs+PCDFs				
平均値	3.6	7.0	8.3	**
標準偏差	2.2	3.8	4.4	
中央値	3.7	6.5	7.4	
範囲	0.049~6.8	1.9~19	2.8~17	
Co-PCBs				
平均値	3.0	4.9	4.6	*
標準偏差	2.6	2.4	2.7	
中央値	2.7	4.3	5.2	
範囲	0.087~11	1.8~9.6	1.7~9.0	
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs				
平均値	6.5	12	13	**
標準偏差	4.2	5.6	6.8	
中央値	6.7	11	13	
範囲	0.14~17	3.7~28	5.2~26	

検定：クラスカル・ワーリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

女性について、出産回数別の血液中ダイオキシン類濃度を表 3.2.19、表 3.2.20に示す。年齢調整値では、出産回数による血液中ダイオキシン類濃度の差は認められなかった。

表 3.2.19 出産回数別の血液中ダイオキシン類濃度

単位：pg-TEQ/g-fat

	0回 (n=17)	1回 (n=12)	2回 (n=31)	3回以上 (n=9)	検定
平均年齢	26.2歳	41.8歳	52.1歳	46.7歳	
PCDDs+PCDFs					
平均値	3.8	5.0	9.4	4.6	**
標準偏差	1.7	1.4	6.8	4.0	
中央値	3.8	5.1	8.8	4.0	
範囲	0.38～6.6	2.4～7.1	0.40～30	0.040～13	
Co-PCBs					
平均値	2.7	3.5	6.9	5.0	*
標準偏差	2.1	0.86	5.5	4.5	
中央値	2.4	3.7	5.3	4.2	
範囲	0.051～7.3	1.4～4.9	0.061～20	0.049～14	
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs					
平均値	6.5	8.5	16	9.5	**
標準偏差	3.5	2.0	12	7.8	
中央値	5.8	8.7	15	8.1	
範囲	0.43～14	5.3～11	0.74～50	0.10～22	

検定：クラスカル・ワーリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

表 3.2.20 出産回数別の血液中ダイオキシン類濃度（年齢調整値）

単位：pg-TEQ/g-fat

	0回 (n=17)	1回 (n=12)	2回 (n=31)	3回以上 (n=9)	検定
PCDDs+PCDFs					
平均値	6.1	5.3	6.7	3.7	
標準偏差	2.5	1.2	4.5	2.5	
中央値	6.6	5.2	6.1	3.8	
範囲	0.82～9.8	3.6～7.4	0.40～19	0.049～6.7	
Co-PCBs					
平均値	5.6	4.0	4.1	3.9	
標準偏差	4.0	1.5	2.7	3.7	
中央値	4.8	4.4	3.5	3.0	
範囲	0.17～12	2.0～7.0	0.094～9.6	0.087～11	
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs					
平均値	12	9.3	11	7.6	
標準偏差	6.2	2.2	6.8	5.8	
中央値	10	9.9	9.8	7.6	
範囲	1.0～22	5.6～13	0.99～28	0.14～17	

検定：クラスカル・ワーリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

3.2.7 職種との関係

アンケートの回答の職種をグループ分けし、血液中ダイオキシン類濃度を比較し、表 3.2.21及び表 3.2.22に示す。

「専門・技術」、「保安」、「運輸・通信」及び「生産工程・労務」からなるグループ1, 「事務」、「サービス」、「管理」及び「販売」からなるグループ2, 「農業」のグループ3, 「漁業」のグループ4, 「無職（学生・専業主婦を含む）」のグループ5の5つに分けた。なお「分類不能の職業」についてはグループに入れていない。

年齢調整値では、職業による血中ダイオキシン類濃度の差は認められなかった。

表 3.2.21 職種別の血液中ダイオキシン類濃度

単位：pg-TEQ/g-fat						検定
	グループ1 (n=32)	グループ2 (n=102)	グループ3 (n=6)	グループ4 (n=1)	グループ5 (n=32)	
平均年齢	46.6歳	42.7歳	48.3歳	57.0歳	46.3歳	
PCDDs+PCDFs						
平均値	7.3	6.7	12	14	9.8	
標準偏差	3.9	4.2	11	-	8.6	
中央値	6.6	5.8	8.6	14	6.6	
範囲	1.0~21	0.052~22	1.3~30	14~14	0.040~33	
Co-PCBs						
平均値	7.0	5.6	9.6	16	9.2	
標準偏差	4.6	6.1	9.3	-	13	
中央値	6.2	3.9	4.2	16	4.0	
範囲	1.1~20	0.047~46	2.5~23	16~16	0.051~51	
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs						
平均値	14	12	22	30	19	
標準偏差	7.5	9.7	19	-	21	
中央値	12	9.8	12	30	11	
範囲	2.1~40	0.10~68	3.7~50	30~30	0.11~82	

検定：クラスカル・ウォリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

表 3.2.22 職種別の血液中ダイオキシン類濃度（年齢調整値）

単位：pg-TEQ/g-fat						検定
	グループ1 (n=32)	グループ2 (n=102)	グループ3 (n=6)	グループ4 (n=1)	グループ5 (n=32)	
PCDDs+PCDFs						
平均値	6.4	6.5	9.2	9.8	7.6	
標準偏差	2.1	3.1	6.1	-	5.2	
中央値	6.6	6.5	8.9	9.8	6.9	
範囲	1.4~11	0.074~17	2.1~17	9.8~9.8	0.049~21	
Co-PCBs						
平均値	5.9	5.0	6.9	9.1	5.9	
標準偏差	3.2	3.6	5.1	-	5.6	
中央値	5.4	4.2	5.9	9.1	4.8	
範囲	1.8~13	0.070~21	1.3~16	9.1~9.1	0.088~24	
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs						
平均値	12	12	16	19	14	
標準偏差	4.5	6.0	10	-	10	
中央値	12	10	14	19	12	
範囲	3.3~21	0.16~34	4.6~30	19~19	0.14~46	

検定：クラスカル・ウォリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

3.2.8 喫煙との関係

喫煙習慣別の血液中ダイオキシン類濃度の統計値を、表 3.2.23及び表 3.2.24に示す。アンケートでは、喫煙習慣について、「習慣的喫煙はない」、「現在喫煙している」及び「過去は喫煙していたが現在はやめている」の3択になっている。

喫煙による血液中ダイオキシン類濃度の差は認められなかった。

表 3.2.23 喫煙習慣別の血液中ダイオキシン類濃度

単位：pg-TEQ/g-fat

	習慣的喫煙はない (n=100)	現在喫煙している (n=38)	過去は喫煙していた が現在はやめている (n=36)	検定
平均年齢	42.4歳	44.2歳	49.9歳	
PCDDs+PCDFs				
平均値	7.1	8.4	8.5	
標準偏差	5.6	6.6	4.8	
中央値	5.9	5.9	7.5	
範囲	0.040～33	1.0～28	2.1～21	
Co-PCBs				
平均値	5.9	8.1	7.4	
標準偏差	6.3	12	5.6	
中央値	3.9	4.6	5.6	
範囲	0.049～49	0.41～51	0.047～20	
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs				
平均値	13	16	16	
標準偏差	11	17	10	
中央値	9.9	11	13	
範囲	0.10～82	2.1～79	2.1～40	

検定：クラスカル・ワーリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

表 3.2.24 喫煙習慣別の血液中ダイオキシン類濃度（年齢調整値）

単位：pg-TEQ/g-fat

	習慣的喫煙はない (n=100)	現在喫煙している (n=38)	過去は喫煙していた が現在はやめている (n=36)	検定
PCDDs+PCDFs				
平均値	6.6	7.5	6.9	
標準偏差	3.6	4.0	3.1	
中央値	6.4	6.7	6.6	
範囲	0.049～21	1.4～17	1.9～14	
Co-PCBs				
平均値	5.3	5.9	5.3	
標準偏差	3.7	5.1	3.5	
中央値	4.5	4.3	4.7	
範囲	0.087～24	0.56～22	0.070～14	
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs				
平均値	12	13	12	
標準偏差	6.7	8.5	6.1	
中央値	11	12	12	
範囲	0.14～46	3.3～39	2.2～28	

検定：クラスカル・ワーリス検定

検定結果：**1%有意、*5%有意、空欄有意差なし

3.3 食事中ダイオキシン類測定結果

3.3.1 平均値及び濃度範囲等

食事中ダイオキシン類濃度（食事試料 1g あたりの濃度）を地域・地区別に表 3.3.1 及び表 3.3.2に示す。

表 3.3.1 食事中ダイオキシン類濃度結果（地域別：WHO-TEF2006）

単位：pg-TEQ/g

	関東甲信越A (n=10)	関東甲信越B (n=10)	東海北陸近畿A (n=10)	東海北陸近畿B (n=10)	中国四国 (n=10)	全国 (n=50)
PCDDs+PCDFs						
平均値	0.0033	0.0048	0.0072	0.0044	0.0039	0.0047
標準偏差	0.0017	0.0039	0.0043	0.0023	0.0021	0.0032
中央値	0.0030	0.0038	0.0064	0.0046	0.0034	0.0040
範囲	0.0011～0.0063	0.00073～0.014	0.0023～0.016	0.00045～0.0077	0.0017～0.0077	0.00045～0.016
Co-PCBs						
平均値	0.0031	0.0062	0.010	0.0059	0.0043	0.0059
標準偏差	0.0021	0.0041	0.0094	0.0052	0.0034	0.0058
中央値	0.00055～	0.0076	0.0057	0.0045	0.0028	0.0041
範囲	0.0073	0.00059～0.011	0.0020～0.026	0.00048～0.017	0.00076～0.011	0.00048～0.026
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs						
平均値	0.0063	0.011	0.018	0.010	0.0080	0.011
標準偏差	0.0033	0.0073	0.014	0.0066	0.0052	0.0086
中央値	0.0066	0.012	0.012	0.011	0.0062	0.0086
範囲	0.0017～0.012	0.0013～0.024	0.0043～0.042	0.00093～0.022	0.0024～0.017	0.00093～0.042

表 3.3.2 食事中ダイオキシン類濃度測定結果（地区別：WHO-TEF 2006）

単位：pg-TEQ/g

	都市地区 (n=25)	農村地区 (n=10)	漁村地区 (n=15)	全国 (n=50)
PCDDs+PCDFs				
平均値	0.0037	0.0039	0.0071	0.0047
標準偏差	0.0021	0.0020	0.0042	0.0032
中央値	0.0031	0.0035	0.0056	0.0040
範囲	0.00045～0.0081	0.0014～0.0077	0.0015～0.016	0.00045～0.016
Co-PCBs				
平均値	0.0046	0.0034	0.0099	0.0059
標準偏差	0.0041	0.0028	0.0076	0.0058
中央値	0.0031	0.0026	0.0078	0.0041
範囲	0.00048～0.017	0.00055～0.0091	0.0017～0.026	0.00048～0.026
PCDDs+PCDFs +Co-PCBs				
平均値	0.0082	0.0073	0.017	0.011
標準偏差	0.0057	0.0042	0.011	0.0086
中央値	0.0070	0.0061	0.015	0.0086
範囲	0.00093～0.022	0.0020～0.013	0.0037～0.042	0.00093～0.042